

HONDA

Honda グリーン購買ガイドライン



BLUE SKIES FOR
OUR CHILDREN

2001年12月 初版
2018年10月 改訂

本田技研工業株式会社

【目次】

I. はじめに	2
II. Honda環境宣言/Honda 環境・安全ビジョン	3
III. Honda グリーン購買方針	4
IV. お取引先の皆様へのお願い	
1. 環境マネジメント	5
①法人・事業所単位での体制構築	
②事業・製品軸での体制構築	
2. 温室効果ガスの排出削減	6
①温室効果ガス排出量の把握と削減	
②フロン排出量の削減	
3. 大気・水・土壌等の環境保全	6
4. 省資源・廃棄物削減	7
5. 化学物質管理	7
①製品化学物質管理	
②工程内化学物質管理	
6. 環境に配慮した製品開発	8
7. 生物多様性の保全	9
問い合わせ先	10

I. はじめに

Hondaは、1960年代から積極的に環境課題の解決に取り組んできました。1970年代には一酸化炭素、炭化水素、窒素酸化物(NOx)の排出を減らした低公害のCVCCエンジンを開発し、当時世界で最も厳しい自動車の排出ガス規制といわれた、米国マスキー法に世界で初めて適合しました。

1992年には、資材調達から設計・開発・生産・輸送・販売・使用・廃棄段階に至るまで製品ライフサイクルの各段階で、環境負荷を低減するという基本姿勢を明文化し、すべての環境取り組みの指針となる「Honda環境宣言」を制定しました。

また、こうした環境取り組みをさらに進め、「存在を期待される企業」であり続けるため、2011年に「Honda環境・安全ビジョン」を定めました。

Hondaは、この環境宣言を自社やグループ企業だけでなく、お取引先や販売会社など、Hondaに関わるすべての皆様と共有し、ともに活動していくことで、このビジョンを実現していきます。

本ガイドラインは、2001年に初版発行以降、社会の要請に合わせ改訂を重ねてきました。お取引先の皆様におかれましては、「Hondaグリーン購買ガイドライン」に基づく、環境負荷の最も少ない企業活動への取り組みをお願いします。

II. Honda環境宣言/Honda環境・安全ビジョン

Honda 環境宣言

地球環境の保全を重要課題とする社会の責任ある一員として、
Hondaは、すべての企業活動を通じて、
人の健康の維持と地球環境の保全に積極的に寄与し、
その行動において先進性を維持することを目標として、
その達成に努めます。

以下に、私たちの日々の活動にあたって従うべきガイドラインを示します。

1. 私たちは、商品の研究、開発、生産、販売、サービス、廃棄というライフサイクルの各段階において、材料のリサイクルと、資源、エネルギーの節約に努めます。
2. 私たちは、商品のライフサイクルの各段階で発生する廃棄物、汚染物質の最少化と適切な処理に努めます。
3. 私たちは、企業の一員として、また社会の一員として、人の健康の維持と地球環境の保全に努力することが重要であると認識し、積極的に行動することに努めます。
4. 私たちは、事業所の活動が、それぞれの地域の人たちの健康と環境や社会に対し及ぼす影響について認識し、社会から高い評価をいただけるように努めます。

1992年6月制定・発表

Honda 環境・安全ビジョン

「自由な移動の喜び」と「豊かで持続可能な社会」の実現

Ⅲ. Honda グリーン購買方針

Honda は、地球環境保全を企業方針の重要な柱として、資源調達から設計・開発・生産・輸送・販売・使用・廃棄段階に至るまでライフサイクル全体での企業活動^(※1)を通じて、環境負荷の低減を目指しています。

これらを効果的に行うために、お取引先の皆様とともに環境負荷の低減を図ると同時に、従来のQ(品質)C(コスト)D(デリバリー)D(開発)に加え、E(環境)をお取引先評価項目^(※2)とし、環境に配慮した製品の購入を推進します。

温室効果ガスの排出削減をはじめとする Honda の環境取り組みについて、お取引先の皆様と取り組み方針を共有し、目標をともに達成していく購買活動全てを「Honda グリーン購買」といいます。

<補足>

本ガイドライン対象範囲は、部品・材料・間接材・用品・サービスパーツ・物流すべての領域に関わるお取引先です。

商品とは、Honda が製造する二輪・四輪・パワープロダクツの完成品です。

製品とは、Honda が購入する部品・材料・間接材・用品・サービスパーツ・物流をさしています。

^(※1) 企業活動とは、Honda の商品に関わるすべての活動が対象となり、その範囲は一次お取引先のみでなく、二次お取引先以降含め、すべてが対象となります。

^(※2) 本ガイドラインに対する取り組み実績を評価します。

IV. お取引先の皆様へのお願い

1. 環境マネジメント

Hondaは、グローバルの既存の完成車工場と完成機工場において、環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001の認証を取得しています。

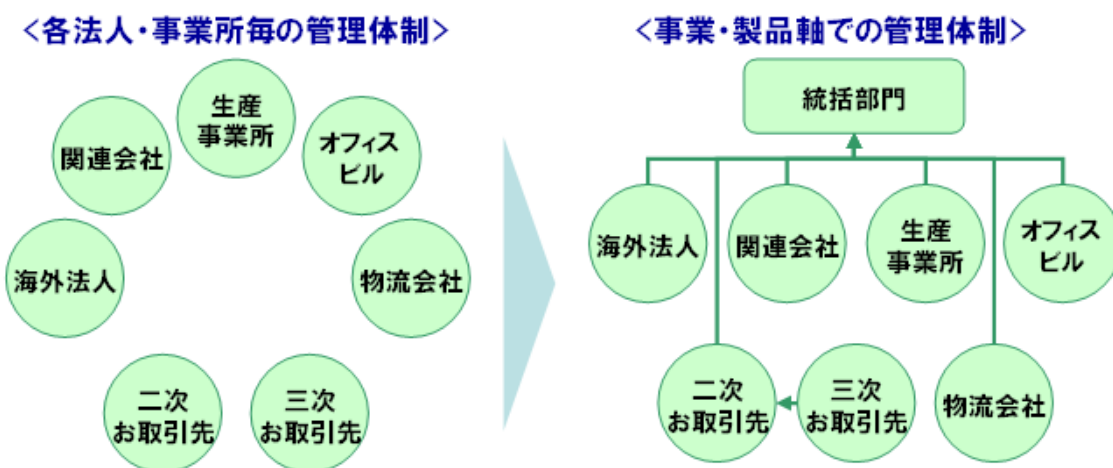
お取引先の皆様におかれましても、幅広い環境活動を推進するため、各国・地域の法令を遵守するとともに、企業活動における環境マネジメントの仕組みを構築し、継続的な運用・改善をお願いします。

①法人・事業所単位での体制構築

ISO14001 または他の第三者認証機関による認証制度に準拠した環境マネジメント体制の構築や、認証取得をお願いします。

②事業・製品軸での体制構築

事業軸における連携強化による、製品ライフサイクル観点での環境マネジメント体制の確立をお願いします。(二次以降のお取引先への環境マネジメント体制構築の指導も含まれます)



必要に応じて、関連する帳票類・データの閲覧やご提供をお願いする場合があります。

2. 温室効果ガスの排出削減

Hondaは、事業戦略と環境戦略を連携させた取り組みを通じて、気候変動問題への対応を進めており、2050年をめどにCO2総排出量を2000年比で半減させることを目指しています。さらに科学的根拠のある目標設定をもとに、CO2低減活動を継続していきます。

お取引先の皆様におかれましても、企業活動における温室効果ガスの排出管理を行い、削減活動を推進するとともに、エネルギーの有効活用への取り組みをお願いします。

①温室効果ガス排出量の把握と削減

ライフサイクル全体での、温室効果ガス排出量の把握およびエネルギーの有効活用等、温室効果ガス排出量削減活動の推進をお願いします。

必要に応じて、関連する帳票類・データの閲覧やご提供をお願いする場合があります。対象のお取引先は別途説明会等を通じてご案内をいたします。

②フロン排出量の削減

お取引先の拠点や製品において、フロン類を使用している場合は、ノンフロンおよび低GWP^(※1)化への対応をお願いします。

(※1)地球温暖化係数(Global Warming Potential)

3. 大気・水・土壌等の環境保全

Hondaは、公害問題が深刻化した1960年代から、大気汚染問題を重要課題と認識しています。特に、都市部における大気汚染の悪化が人々の健康に悪影響を与え、「自由な移動の喜び」と「豊かで持続可能な社会」が阻害されると考え、排出ガスをクリーンにする技術の開発でこの問題を解決してきました。また、企業活動により河川の上流・下流の水資源に影響を及ぼす可能性を認識し、水使用量の最小化、排水処理の適正化等、水資源の保全にも注力しています。

お取引先の皆様におかれましても、大気・水・土壌等の汚染防止に関する各国・地域の法令を遵守するとともに、継続的な監視と汚染物質の削減を行い、水使用量の削減をはじめ環境保全に努めてください。

必要に応じて、関連する帳票類・データの閲覧やご提供をお願いする場合があります。

4. 省資源・廃棄物削減

Honda は、資源の有効利用を重要課題のひとつに位置づけ、3R^(※1)活動を積極的に推進し廃棄物の適正処理も確実に行っていきます。資源調達から廃棄・リサイクルに至るまで、ライフサイクル全体で発生する資源の有効利用と廃棄におけるリスクゼロを目指し、取り組みを進めています。

お取引先の皆様におかれましても、廃棄物の適正処理・リサイクル等に関する各国・地域の法令を遵守するとともに、資源効率を高めることの重要性をご理解いただき、廃棄物発生量の削減や、資源リサイクル等の体制構築と継続的な取り組みをお願いします。

必要に応じて、関連する帳票類・データの閲覧やご提供をお願いする場合があります。

(※1) Reduce, Reuse, Recycle

5. 化学物質管理

Honda は、環境に影響を及ぼす可能性のある化学物質を製品から削減していくため、設計・開発段階から製品に含まれる化学物質を管理しています。製品以外でも、人や環境に対して危険有害性の高い物があり、工程内での使用時および輸送時についても、化学物質管理を徹底しています。

サプライチェーンが国をまたいで複雑化している中、お取引先の皆様におかれましても、製品に含まれる化学物質の管理には、二次お取引先に対する管理の徹底、さらにサプライチェーン末端までの管理を徹底することが必要です。環境汚染の可能性のある化学物質は、サプライチェーン全体において安全な管理を行ってください。また、各国・地域の法令で禁止された化学物質が、当該国・地域において含有しないことの保証をお願いします。

①製品化学物質管理

- ・「Honda 製品化学物質管理基準書」に適合する体制構築と化学物質管理
- ・「Honda 製品化学物質管理基準書」適合宣言書のご提出
- ・Honda が指定するシステムへの製品化学物質データの入力(対象となる製品は、Honda より指定)

②工程内化学物質管理

- Honda が指定するシステムへの入力、もしくは別途合意された方法により安全データシート（以下 SDS）^(※1)の提出をお願いします。（対象となる製品は、法令により SDS の提供が義務付けられているものおよび Honda が別途指定するもの）
- SDS は最新の状態を保つため、法令の改正等により記載内容に変更が生じた際は、速やかに最新版の入力もしくは提出をお願いします。
- Honda が指定する対象製品に変更が生じた場合は、別途通知をしますので、速やかに SDS を入力もしくは提出をお願いします。

^(※1)Safety Data Sheet 国連 GHS(化学品の分類および表示に関する世界調和システム)で規定

6.環境に配慮した製品開発

Honda は、環境における優先課題として「気候変動・エネルギー問題への対応」「資源の効率利用」「クリーンな大気の保全」を掲げており、これらの課題に対し、自らの技術と企業活動で、将来的に「環境負荷ゼロ社会」の実現を目指しています。

お取引先の皆様におかれましても、供給していただく製品やサービスについて、燃費向上の観点(軽量化、低抵抗、省電力等)や環境への配慮を重要視したご提案をいただき、環境に良い商品へつながるようご協力をお願いします。

7. 生物多様性の保全

Honda は、企業活動が生物多様性に影響を及ぼす可能性があることを認識し、早くからその保全につながる活動に力を入れてきました。2011 年には「Honda 生物多様性ガイドライン」を制定。Honda は、「Honda 環境宣言」における地球環境保全の重要な取り組み課題として生物多様性保全を認識し、企業活動との調和を図っていくことを基本的な考え方として定めています。

お取引先の皆様におかれましても、生物多様性保全の重要性をご理解いただき、最大限のご配慮をお願いします。

Honda 生物多様性ガイドライン

【基本的な考え方】

Honda は、「Honda 環境宣言」における“地球環境保全”の重要な取り組み課題として“生物多様性保全”を認識し、企業活動との調和を図っていきます。

重点取り組み領域

1. 環境技術の追求

低燃費車、次世代自動車、エネルギー創出等の環境負荷物質低減技術の開発と普及により、生物多様性の保全に貢献します。

2. 企業活動での取り組み

効率の追求による環境負荷物質の低減と資源の有効活用を推進します。

3. 地域社会との連携

Honda が「ふるさとの森」「ハローウッズ」等で培ってきた“生態系を大切にしてきたノウハウ”を活かし、ステークホルダーと連携・協力しながら、地域に根ざした活動を推進します。

4. 情報の開示と共有

成果を開示することで、社会と情報の共有を図ります。

2011 年 5 月制定

問い合わせ先

対象お取引先	担当部署	問い合わせ先	付表
部品、材料、 四輪用品お取引先	購買本部 購買企画部 サステナビリティマネジメント課	環境担当 028-677-7033	○
間接材お取引先	購買本部 購買二部 一般購買課	048-452-0202	○
サービスパーツ お取引先	<補修> 日本本部 部品部 供給企画課	048-452-0432	—
	<二輪用品> 二輪事業本部 事業企画部 用品供給課	096-293-1063	
物流・梱包材お取引	生産本部 SCM 企画部 ESG 推進課	03-5412-1534	—

HONDA

〈発行〉

本田技研工業株式会社 経営企画統括部 環境安全企画部
購買本部 購買企画部